

(仮称)さいたま スポーツシユーレの方向性

(2017.11)

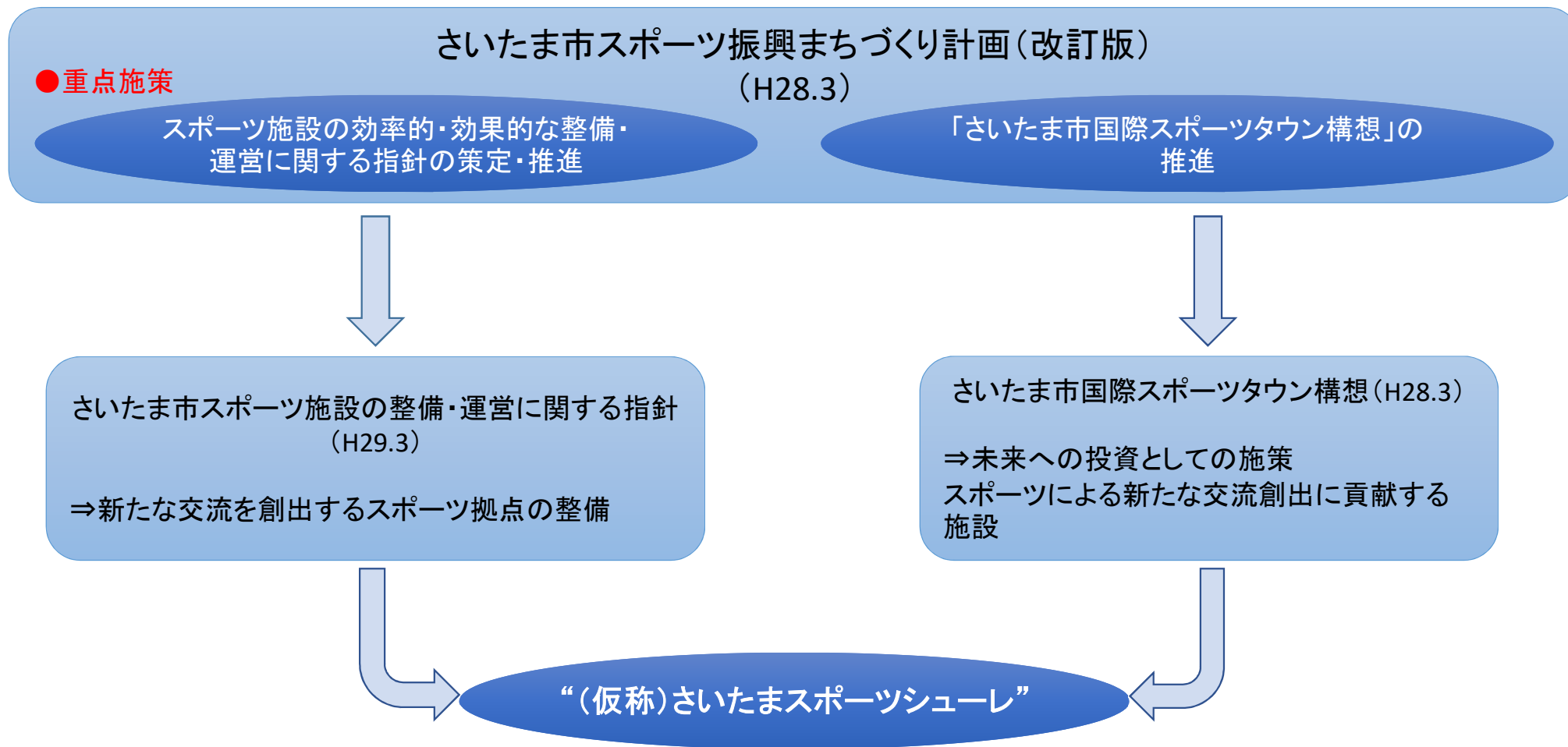
平成29年11月28日(火)
都市経営戦略会議 資料
スポーツ文化局スポーツ部スポーツ振興課

本日 ご審議いただきたいこと

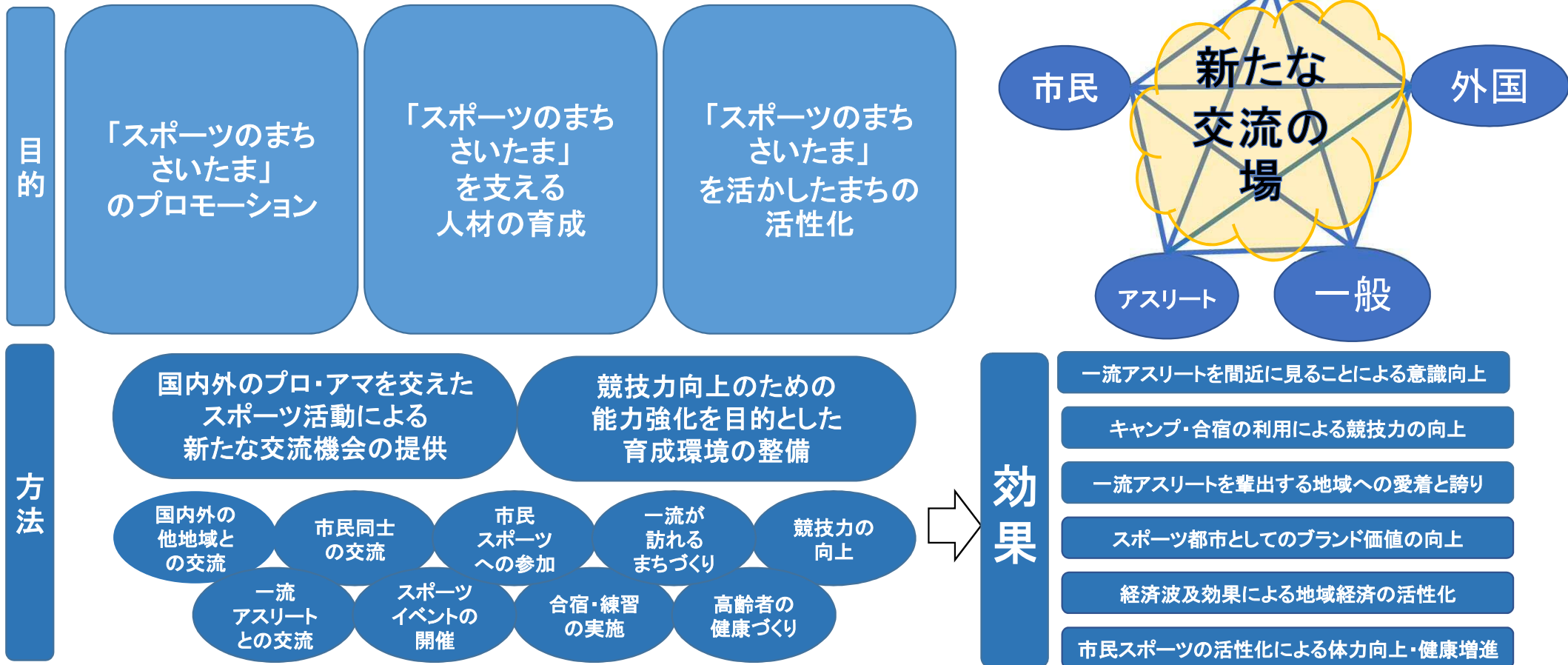
- 1 (仮称)さいたまスポーツシューレの形態
- 2 (仮称)さいたまスポーツシューレの運営

1. (仮称)さいたまスポーツシューレの位置づけ
2. (仮称)さいたまスポーツシューレとは
3. (仮称)さいたまスポーツシューレの目指す姿
4. (仮称)さいたまスポーツシューレ整備の形態
5. これまでに提示された3案
6. 荒川左岸スポーツ施設群の活用
7. 運営体制

1. (仮称)さいたまスポーツシューレの位置づけ

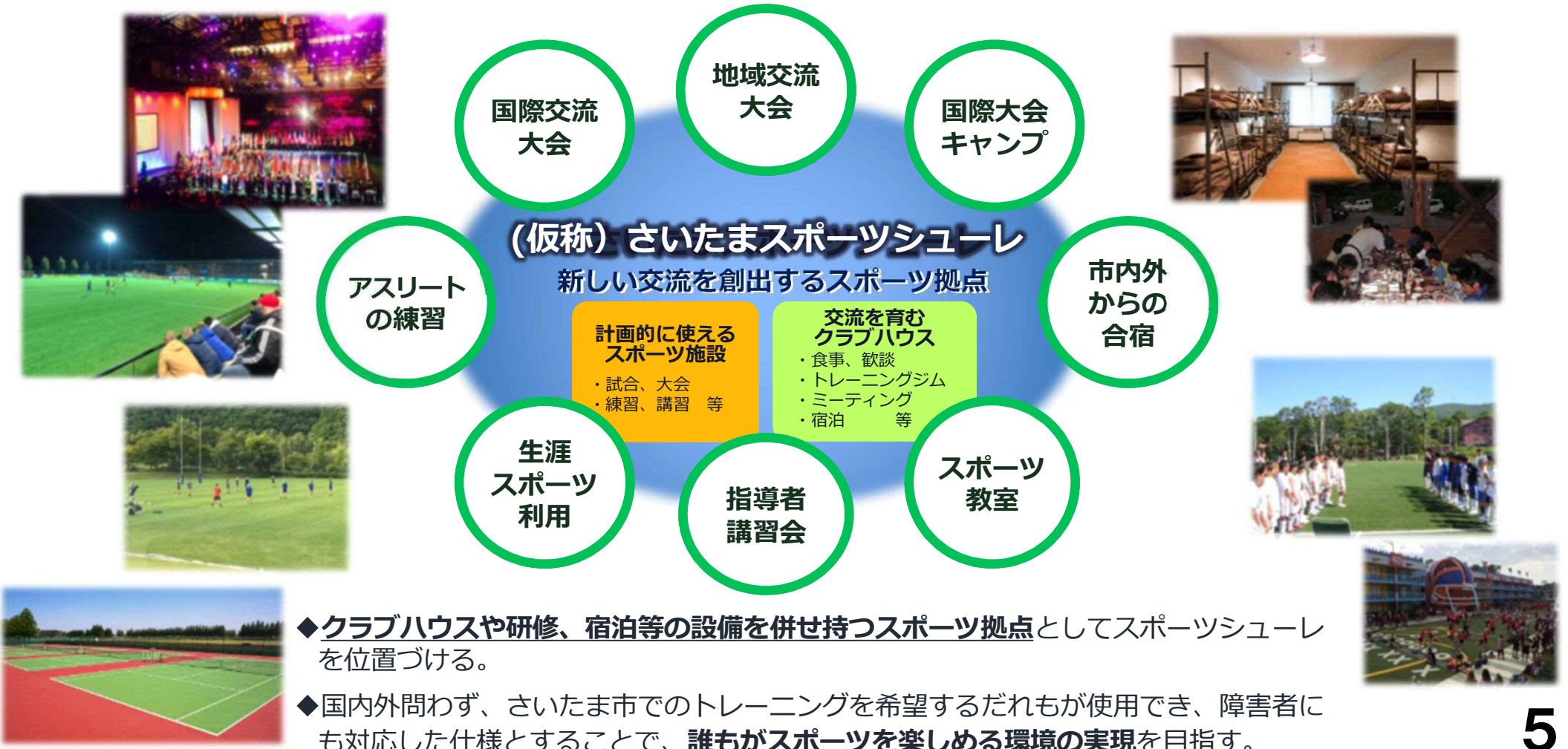


2. (仮称)さいたまスポーツシューレとは



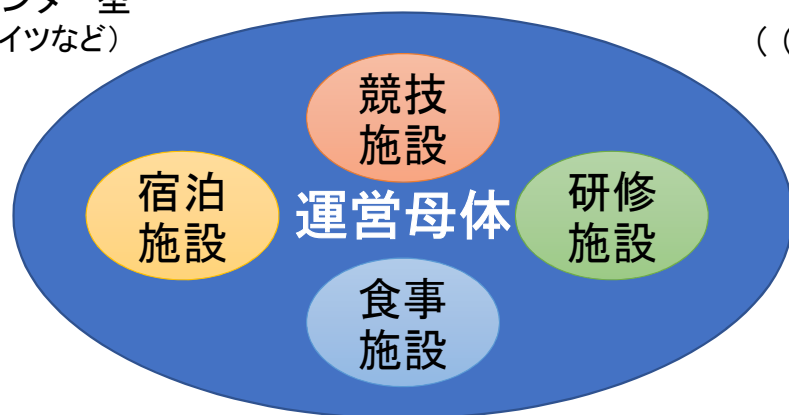
※スポーツシューレとは、スポーツ施設とクラブハウスや研修、宿泊などを総合的に併せ持つ施設である。

3. (仮称)さいたまスポーツシュレーの目指す姿



4. (仮称)さいたまスポーツシューレ整備の形態

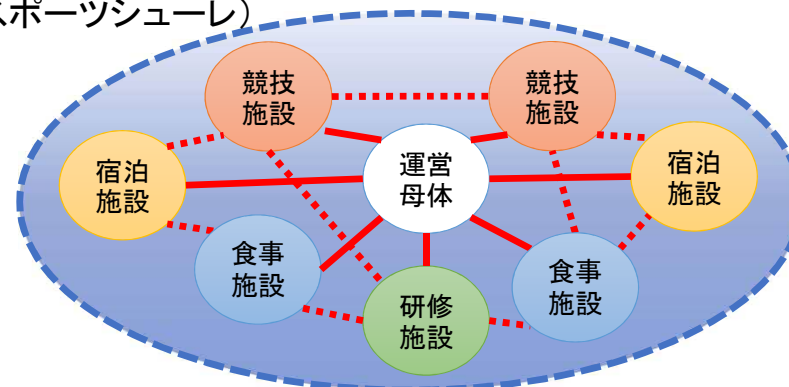
◆センター型
(ドイツなど)



センター型の特徴

同一敷地内に競技施設・宿泊施設・食事施設・研修施設などの必要な施設を整備する

◆ネットワーク型
((仮称)さいたまスポーツシューレ)



ネットワーク型の特徴

1. 公民の競技施設が一定の距離範囲内にある地域で、既存の市内産業(宿泊・食事など)を活用して構築する

さいたま市内にスポーツシュールをつくる際の比較

	センター型	ネットワーク型
メリット	<ul style="list-style-type: none">・施設が敷地内にあり、移動の手間がかからない。・目的に特化しており、最低限必要な施設は揃えることができる。・視認性、話題性に優れている。	<ul style="list-style-type: none">・多くの民間施設との連携を行うため、地域経済への貢献が期待できる。・既設施設を利用するため、整備コストが低く、開設までの期間も短い。・オーダーメイド(ニーズに合った独自の形態)での利用が出来る。・必要な機能を持った施設があればネットワークを接続することで拡大が容易である。・複数の経営者によりそれぞれの施設を運営しているため、リスクの分散が出来る。
デメリット	<ul style="list-style-type: none">・新規で用地の取得と施設の整備が必要になるため、コストと時間がかかる。・計画段階で敷地が限定され、拡大に制限がある。・宿泊、飲食などの提供を受ける際、価格や内容に関する柔軟性が低い。	<ul style="list-style-type: none">・施設間の移動に時間を必要とする。

ネットワーク型は、既設の施設を利用するため、整備コストが低く、開設までの期間も短く、オーダーメイド(ニーズに合った独自の形態)での利用が可能で、地域経済への貢献が期待できる。

(検討結果)

都市機能や既存競技施設が充実している本市には、ネットワーク型スポーツシュールが適している。

5. これまでに提示された3案

「さいたま市スポーツ施設の整備・運営に関する指針」の中で、次の3つの案が示された。

検討案1

美園地域などに新たな施設を設置

美園地域を始め、市内に用地を確保し、民間、競技団体等の施設の誘致、または市直営の施設を新設する案



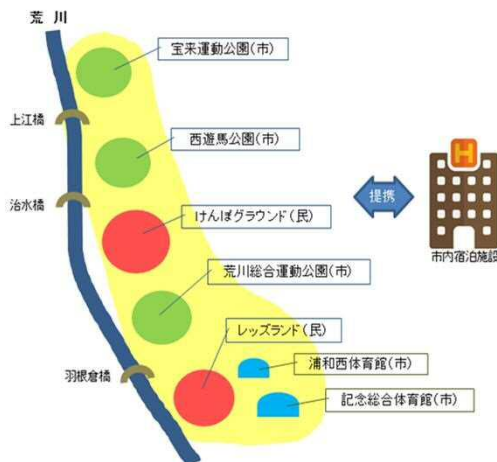
スポーツシューレ イメージ図

センター型

検討案2

荒川河川敷のスポーツ施設群を活用して設置

荒川河川敷に集積する運動公園及び大宮けんぽグラウンド、レッズランド等の民間施設を活用し、この一帯を(仮称)さいたまスポーツシューレと位置付け、本市のスポーツの拠点とする案



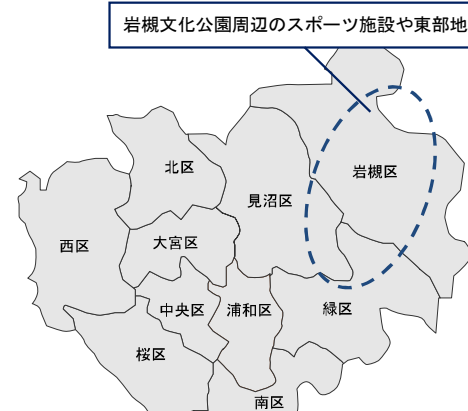
ネットワーク型

- ・既存のスポーツ施設が多い
- ・既存施設を活用するため、比較的短期間での開設が可能

検討案3

岩槻文化公園周辺のスポーツ施設や東部地域などを活用して設置

岩槻文化公園及びその周辺地域に集積するスポーツ施設及び東部地域などを活用するとともに、新たな施設の整備も視野に入れ、この一帯を(仮称)さいたまスポーツシューレと位置付け、本市のスポーツの拠点とする案



センター・ネットワーク混在型

- ・既存のスポーツ施設が少ない
- ・整備コストがかかり、立ち上げに時間がかかる

6. 荒川左岸スポーツ施設群の活用

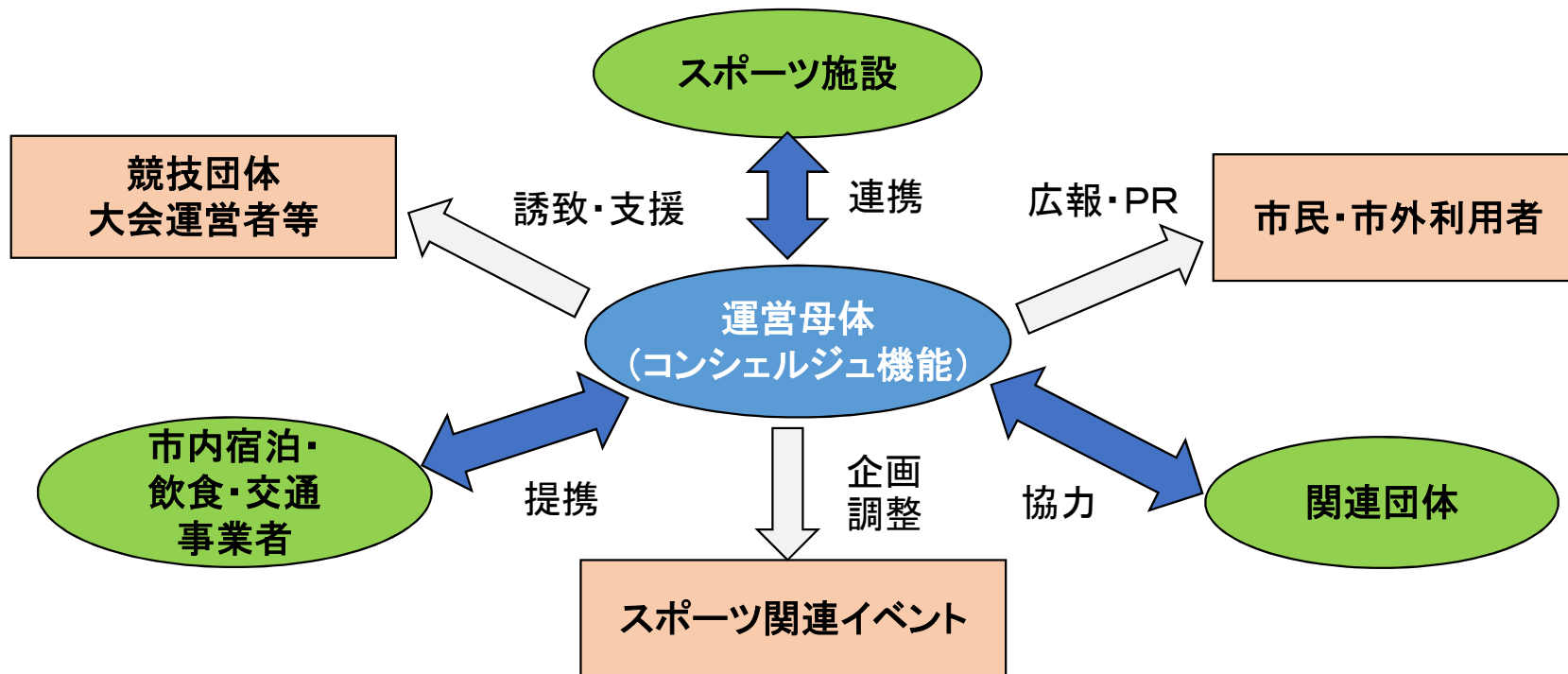
競技施設		宿泊施設	食事施設	研修施設	メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ・宝来運動公園 ・西遊馬公園 ・大宮けんぼグラウンド(※) ・荒川総合運動公園 ・レッズランド(※) ・浦和西体育館 ・記念総合体育館 など ※民間施設	野球場61面 サッカー場16面 テニスコート142面 バスケットコート5面 プール (屋内25m 1箇所) トレーニング室	地区内、近隣には宿泊施設が無い	地区内、近隣には食事施設が少ない	クラブハウスの会議室、体育館の会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の運動公園や民間スポーツ関連施設が多い ・既存施設を活用するため、比較的短期間での開設が可能 ・対象施設で国際大会開催の実績があり、誘致の際のアピール材料となる ・新幹線駅(大宮駅)から6km ・埼玉大学やレッズランドが近くにあり、活用を検討できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・台風での増水等により屋外施設が使用できなくなるリスクがある

(検討結果)

スポーツ施設群の集約度・規模に優れた荒川左岸スポーツ施設群を中心とした、ネットワーク型のスポーツシュールを整備する。センター型に比べ不利な面については、交通機能との連携により移動の利便性を高めるなどコンシェルジュ機能でカバーしつつ、ネットワーク型の有利性を最大限に活かしていく。

7. 運営体制

～センター型と比べて不利な面を解消し、ネットワーク型の利点を活かすコンシェルジュ型のワンストップサービスの提供～



スポーツシュレの運営母体は、スポーツ大会やキャンプの誘致・支援の実績や、スポーツ関連イベントの企画調整能力を持ち、市内の公有・私有スポーツ施設の情報にも精通しており、宿泊や飲食の事業者との連携も期待でき、体育協会や観光国際協会などの団体との協力体制も築くことが出来る、市民への広報・PR能力に長けた団体であることが望ましい。

(検討結果)

(仮称)さいたまスポーツシュレは、運営母体に求められている様々な能力を持った団体を中心として、各種団体との協定や連携によるコンシェルジュ機能を活用した運営を行うものとする。